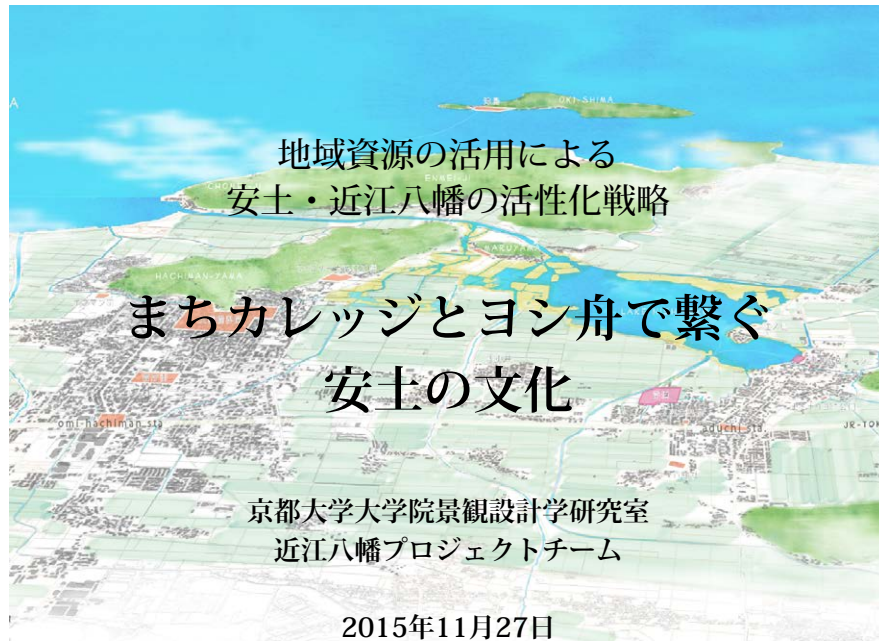


大きなモノ 専門的な話



交流の場 観光振興

近江八幡市全体の発展にも繋がる戦略提案





安土の魅力

まちなかの湧水



安土の魅力

西の湖



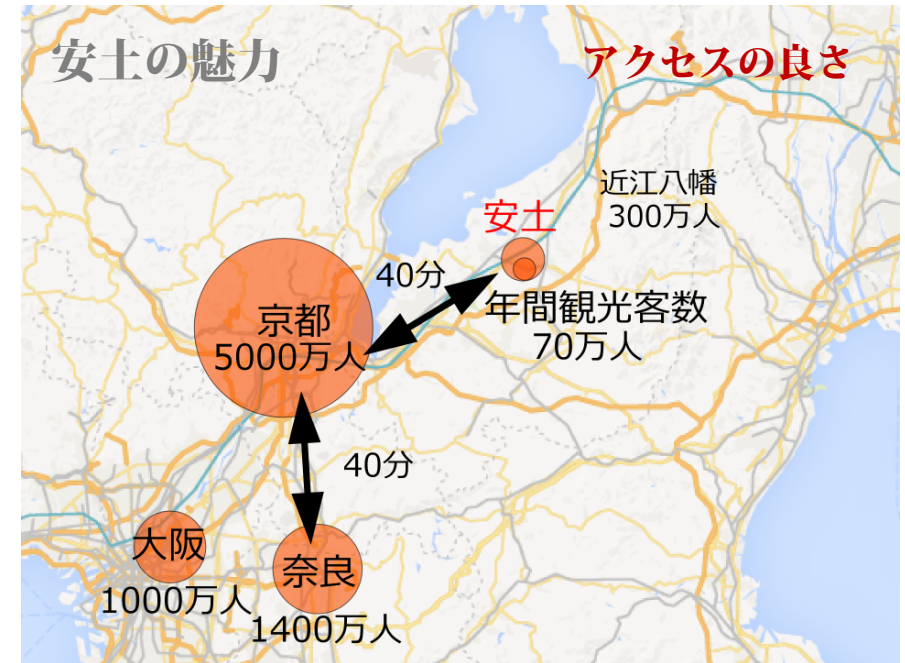
安土の魅力

ヨシの景観



安土の魅力

祭り



安土は歴史、水、コミュニティと
「ホンモノの文化」を基軸とした
魅力にあふれたまち

しかし
安土でよりよい生活を送るために
魅力を高められるポイントがある！





戦略

魅力的な文化がある
アクセスも良い

文化を継承したい

住民・観光客と一緒に楽しく
文化を学ぶ場を作る

文化の担い手の育成

まちカレッジ

近江八幡市全体の戦略

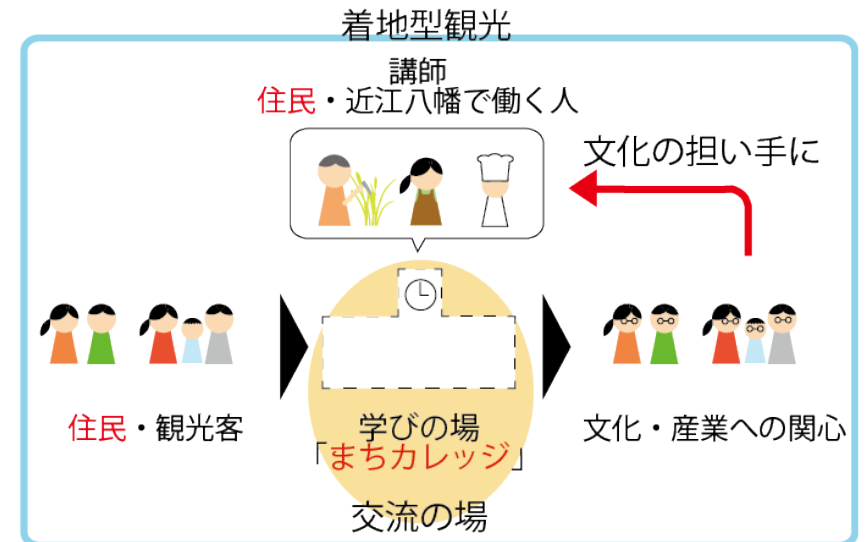
魅力的な文化がある
アクセスも良い

文化を継承したい

住民・観光客と一緒に楽しく
文化を学ぶ場を作る

安土と同様の戦略を市全体で進める

まちカレッジとは



まちカレッジの目的

着地型観光とは？

受け入れ側がプログラムを
提供する観光形態

その地域ならではの
体験を提供できるため
魅力を伝えやすい！



岩手県久慈市の例
(三陸ジオパークHP、いわての旅HPより)

講座例



安土城信長学



安土城跡を歩きながら、信長の館の方から
安土城や信長の話を聞く

湖魚料理学



空き家をリフォームして、湖魚料理屋が講師になり、
湖魚を使った料理を体験

町並み保全学



まちカレッジ構想を実現する第一歩 『ヨシ舟づくり学』

ヨシ舟づくりから始める 安土の活性化戦略



ヨシ舟づくり学

ヨシを刈る(冬)



葦職人の方と一緒に
5～10人で半日で一艘分の葦が刈り取れる

32

ヨシ舟づくり学

ヨシを干す(春)



冬にヨシを刈ってから夏に使うまで、
ヨシを干し、保管する

33

ヨシ舟づくり学

ヨシ舟をつくる(夏)



常浜公園のグラウンドで15人程度で
二日間で3人乗りのヨシ舟を一隻つくる

34

ヨシ舟づくり学

ヨシ舟に乗る(夏)



自分たちで作ったヨシ舟で
水辺を使い倒す！

35

なぜ安土でヨシ舟づくりをやるのか？

なぜなら

- ・ 主な材料であるヨシが安土には沢山ある！
- ・ 安土ではヨシを干すことも昔から経験している！
- ・ 常浜・西の湖という水の流れがほとんどなく **安全**
に舟に乗れる水辺がある！
- ・ 安土はもともと **舟運で栄えたまち**

36

38

安土は弥生時代から港町だった！？

7世紀ごろ（弥生時代）
のものと思われる遺跡
↓
「栈橋」かもしれない石敷遺構
↓
「栈橋」＝港の存在



(2008年4月20日、産経新聞、「びわこの考湖学」)

安土でヨシ舟を使っていたかもしれない

39

文化の拠点：常浜

安土城

安土の歴史の拠点



常浜

安土の舟運の拠点



1年を通して、ヨシに関わる

西の湖の資源であるヨシを活用し
常浜公園で
ヨシ舟づくりを行う

ヨシの保全
水文化の継承
交流の場づくり

42

ヨシを保全する

1. 水質の浄化 【水】
2. CO2の削減 【空気】
3. 波風からの護岸 【土壌】
4. 魚や貝の棲み家 【生態系】

43

水文化の継承

まちの発展と人々の生活に深く関わっている水
後世にも残していくべき資源

水辺の価値を改めて考えるきっかけをつくる

水辺を利用し、その資源の価値を皆が認識し、
共有できる

17

交流の場作り

既存の住民ネットワーク

新興住宅

新しく安土に来る人

一緒に活動する機会が増える→地域の活力UP!

45

石巻市でのヨシ舟づくりイベントの例

【主催者】 NPO団体「りあすの森」

【目的】 震災被害のあった北上川流域の環境回復
人材育成による地域の活性化

【協力者】 プロの講師

2日で、15人程度で、
一隻のよしぶね作れる！

46

ヨシ舟づくり学

二種類のコース

A. 年間コース

冬から夏にかけて4回 × 2グループ

定員30人

ヨシ刈り+ヨシ干し+ヨシ舟づくり+ヨシ舟乗船

参加費 2 万円（親一人につき子ども二人まで無料）

B. 週末コース

夏場（6-8月）に6回（約2回/月）

定員15人

ヨシ舟づくり+ヨシ舟乗船

昼食つき

参加費 1 万円（親一人につき子ども二人まで無料）

48

ヨシ舟づくりプログラム

ヨシ舟づくり学

スケジュール（年間コース）

12月～2月 ヨシを刈る @西の湖

3月～5月 ヨシを干す

6月～8月 ヨシ舟をつくる @常浜

ヨシ舟に乗る @常浜・西の湖

9月～11月 ヨシの再活用・翌年への引き継ぎ

47

49

ヨシ舟づくり学

ヨシを刈る（12月～2月）

- ・葦地の所有者に許可を取る
- ・葦職人の方と一緒にいる
- ・5～10人で半日で一艘分の葦が刈り取れる



長さ2m～3m
1束の直径約20cm前後 × 25～30束



50

ヨシ舟づくり学

ヨシを干す（3月～5月）

- ・ヨシを干す作業を続けている方と一緒にヨシを干す
- ・1日職場体験
- ・ヨシを干す技術・仕組みを学ぶ
- ・場所はヨシ干しが行なわれている既存の場所



51

ヨシ舟づくり学

ヨシ舟を作る（6月～8月）

- ・二、三人乗りの舟をつくる
- ・制作会場：常浜公園のグラウンド
- ・参加人数：大人と子ども合わせて15人程度で一隻つくる
- ・プロの講師を呼ぶ



52

ヨシ舟を作る（6月～8月）

1日目

8:00 - 会場準備
9:00 - 作り方の説明
10:00 - ヨシを束ねる
12:00 - 昼食
13:00 - 船体を作る
16:00 - 片付け
16:30 - 1日目終了

2日目

9:00 - 仕上げ
10:00 - 移動・乗船準備
10:30 - 乗船
12:00 - 昼食
13:00 - 乗船
15:30 - 片付け
16:00 - 2日目終了



53

ヨシ舟に乗る

- ・葦舟を湖まで運ぶ
- ・乗船する前に、河川事務所や港湾事務所に許可を取る
- ・モーターボートによる安全監視とライフジャケットの着用が必要



54

ヨシ舟の保管・再利用

- ・乗船が終わったら、1日～2日は水抜き
- ・乗船できる期間は1年～3年
日陰、風通しの良い場所で保存
- ・市役所や資料館に展示
- ・再利用の方法
堆肥にする、燃やす、舟に土を盛って花壇にする、紙にする、など

55

スケジュール（週末コース）

週末の2日間で、ヨシ舟作りとヨシ舟乗船



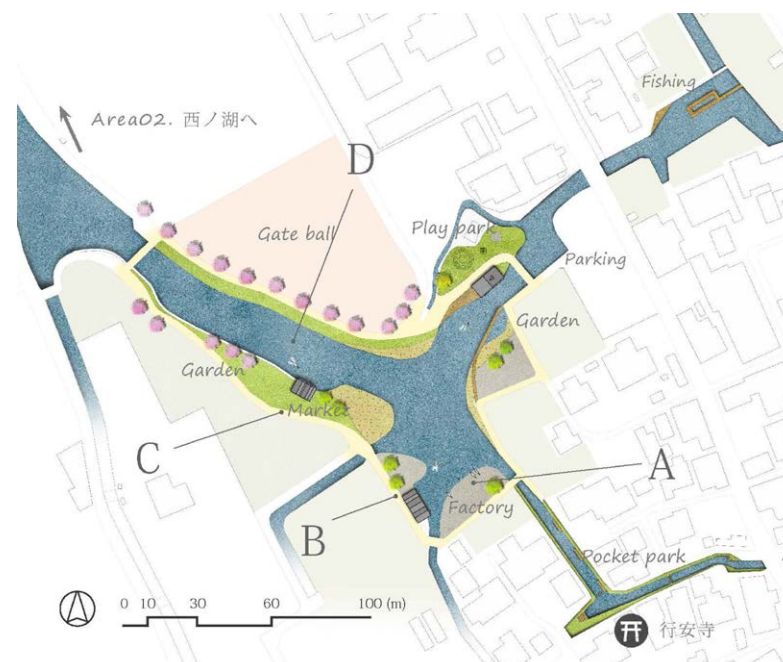
1日目

- 8:00 - 会場準備
- 9:00 - 作り方の説明
- 10:00 - ヨシを束ねる
- 12:00 - 昼食
- 13:00 - 船体を作る
- 16:00 - 片付け
- 16:30 - 1日目終了

2日目

- 9:00 - 仕上げ
- 10:00 - 移動・乗船準備
- 10:30 - 乗船
- 12:00 - 昼食
- 13:00 - 乗船
- 15:30 - 片付け
- 16:00 - 2日目終了

56



57



ヨシ舟づくりが文化を守る

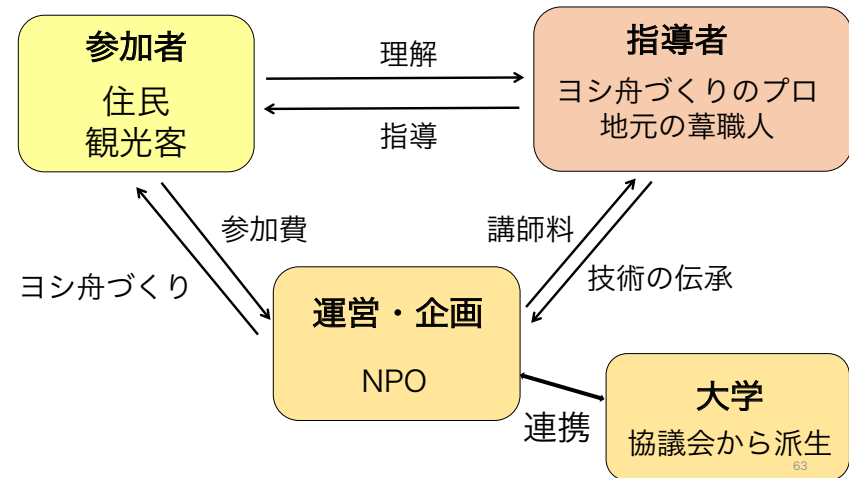
- ・ 水との関わりを大切にしていく姿の継承
- ・ 地域の資源であるヨシに対する理解を深め、ヨシを守っていく
- ・ 地域の活力を生み出す人と人のつながり
- ・ 常浜という場所の魅力の再発見
- ・ 次の年へ、次の世代へ、伝えていく

継続できるのか？

- ・イベント自体に面白さと達成感がある
→またやりたいと思える
- ・イベントをする毎に理解者が増える
- ・イベントを通して人のつながりが広がる
→実行に移すための人々の協力が得られる
→外部への広報力が拡大する

62

ヨシ舟づくり講座：開催の仕組み



63

ヨシ舟づくり講座：年間収支

【収入】

- 参加費（年間コース）：60 万円/年
（2万円/年 × (大人)30人）
- 参加費（週末コース）：60 万円/年
（1万円 × (大人) 10人 × 6回/年）

計：120 万円

【支出】

- 初期費用（用具・講師）：8 万円
 - 運営費（ヨシ刈り・干し）：4 万円/年
 - 運営費（ヨシ舟づくり・乗船）：24 万円/年
- 運営費 計：36 万円

年間 約90万円の収益！

64

ヨシ舟づくり講座：年間収支

【収入】

- 参加費（年間コース）：60 万円/年
（2万円/年 × (大人)30人）
- 参加費（週末コース）：60 万円/年
（1万円 × (大人) 10人 × 6回/年）

計：120 万円

【支出】

- 初期費用（用具・講師）：8 万円
 - 運営費（ヨシ刈り・干し）：4 万円/年
 - 運営費（ヨシ舟づくり・乗船）：24 万円/年
- 運営費 計：36 万円

参加者がこの 1/3 でも黒字

年間 約90万円の収益！

65

ヨシ舟ワークショップの収益で
“貸し舟屋”をつくる！

多目的利用が可能な
「現代の船着場」



66

67

貸し舟屋とは



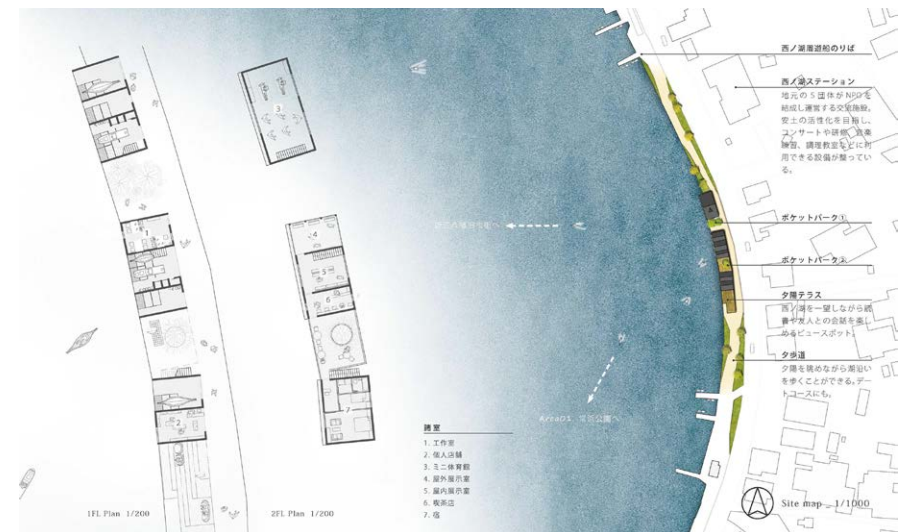
公園と湖の一体的利用

2階の貸し出し

ヨシ舟の停泊



68



69

貸し舟屋のメニュー

A. 賃貸

継続的な貸し出し
月単位での契約

B. 時間貸し

単発のイベントや講座に応じて貸し出し
半日・1日

70

舟屋の2階の利用例 【写真展示場】



71

ヨシ舟の利用例 【採れたて市場】



72

様々なプログラム

2階を利用したプログラム

- ・ 工作室
- ・ 個人店舗
- ・ ミニ体育館
- ・ 屋外展示室
- ・ 喫茶店
- ・ 宿
- など

ヨシ舟を利用したプログラム

- ・ ヨシ舟競争
- ・ 西の湖&水路めぐりツアー
- ・ 歴史めぐりツアー
- ・ 花見
- ・ 花火
- ・ ライトアップ
- など

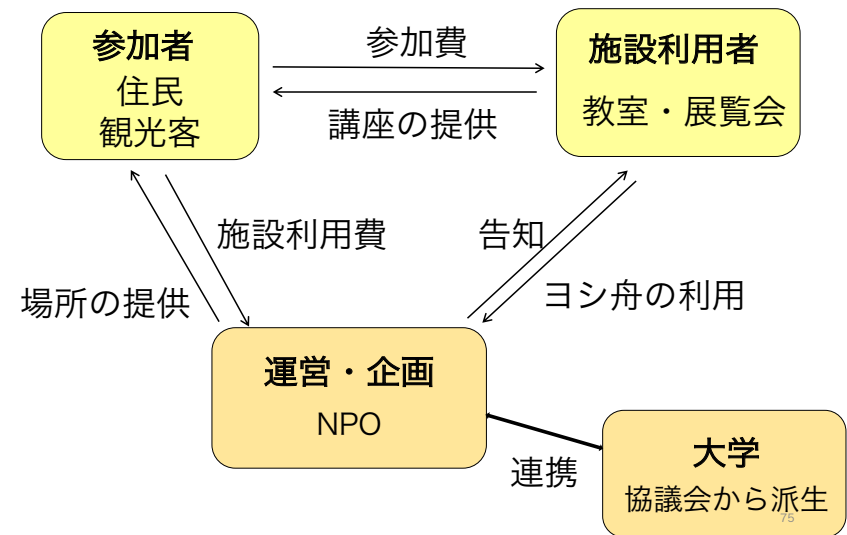
73

多目的利用が可能な舟屋

- ・ 舟屋の2階の利用と、イベント時のヨシ舟の利用をセットにできる
- ・ 賃貸料を払う必要がなく、逆に収入を得られる
- ・ 舟の運搬に苦労しないので、舟を利用したイベントを開催しやすい



貸し舟屋：利用のしくみ



講座と舟屋運営の年間収支

【収入】

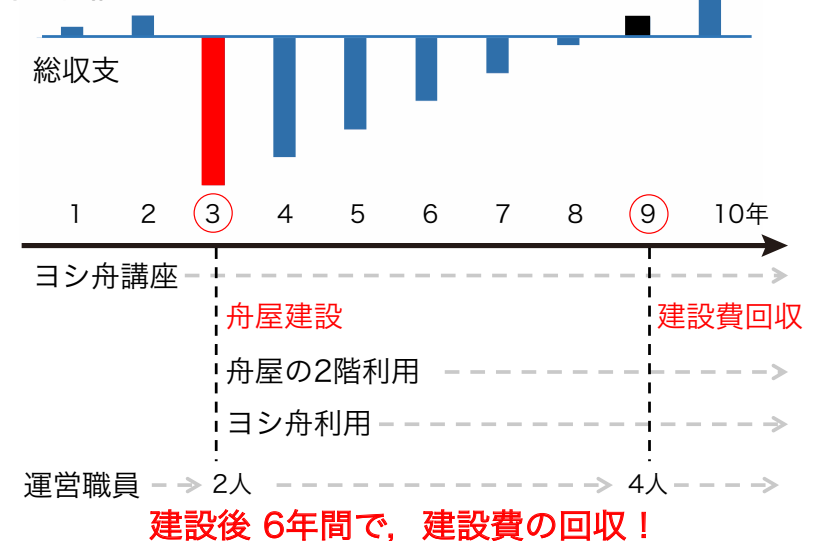
- 講座参加費 : 120万円/年
- ヨシ舟利用料 : 120万円/年
- 賃料 : 48万円/年
- 貸し出し : 12万円/年

計 : 300 万円

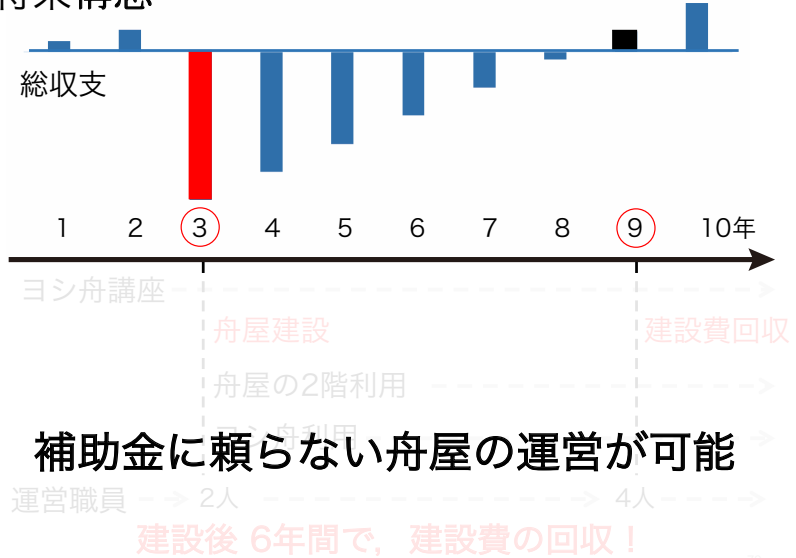
【支出】

- 初期費用（建設費） : 2000 万円
- 管理・運営費（人件費） : 7 万円/年

将来構想



将来構想



講座間の連携をとる体制 = 「まちカレッジ」



他の講座も同様のしくみで行う

近江八幡市全体の未来像



常浜という拠点の重要性

